

## 平成 30 年度 1 月定例記者会見 次第

日時：1 月 24 日（木）13 時 30 分～

会場：糸島市役所 庁議室

### 【出席者】

〔伊都国記者会〕朝日新聞、糸島新聞、西日本新聞、毎日新聞、読売新聞  
NHK福岡放送局

〔糸島市〕市長、副市長  
関係部課（総務部）危機管理課  
（産業振興部）商工観光課

1 市長あいさつ

2 2月のイベント イベント情報

3 案件

（1）平成 29 年中の観光入込客について

（商工観光課） 資料 1

（2）平成 30 年度福岡県原子力防災訓練の実施について

（危機管理課） 資料 2

4 市長短信 短信資料

5 懇談・その他

次回定例記者会見の開催日時（予定）

日時：2 月 22 日（金）13 時 30 分～

場所：糸島市役所 庁議室

速報

# 糸島市への観光入込客数 648.3 万人に

平成29年中の糸島市への観光入込客数：648.3万人（15.5万人増）

平成12年以降、17年連続で増加。

➤平成29年福岡県観光入込客推計調査により調査実施（速報値、県未公表）

項目	人数	前年比	全体比率
平成29年中観光入込客数	6,483,234人	2.4%増	
うち、日帰り客数	6,365,766人	2.5%増	98.2%
宿泊客数	117,468人	0.8%増	1.8%
外国人観光客数	43,198人	16.7%増	

➤調査対象期間：平成29年1月1日から平成29年12月31日まで

➤調査箇所：市内観光スポット等172か所

区分ごとに、観光客が多く立ち寄る観光スポット等を市が選別

【区分】 一般行楽、 祭・行事・イベント、 神社・文化財等、 ハイキング・登山、 海水浴、 キャンプ、 釣り・観光漁業、 フルーツ狩り、 ゴルフ

## 観光入込客数の増加要因

➤カキ小屋の入込客数が増加

- ・メディアや雑誌等での紹介が増え、糸島のカキ人気  
が定着し、入込客数が増えたことによるもの。

入込客数	割合	前年比
48.1万人	7.4%	18.2%増

➤ハイキング・登山の入込客数が増加

- ・登山初心者にも登りやすい低山が多いこと、豊かな  
植生（コバノミツバツツジ、オオキツネノカミソリ  
など）によりリピーターにも人気が高いことによる  
もの。

入込客数	割合	前年比
14.9万人	2.3%	3.3%増

➤フルーツ狩りの入込客数が増加

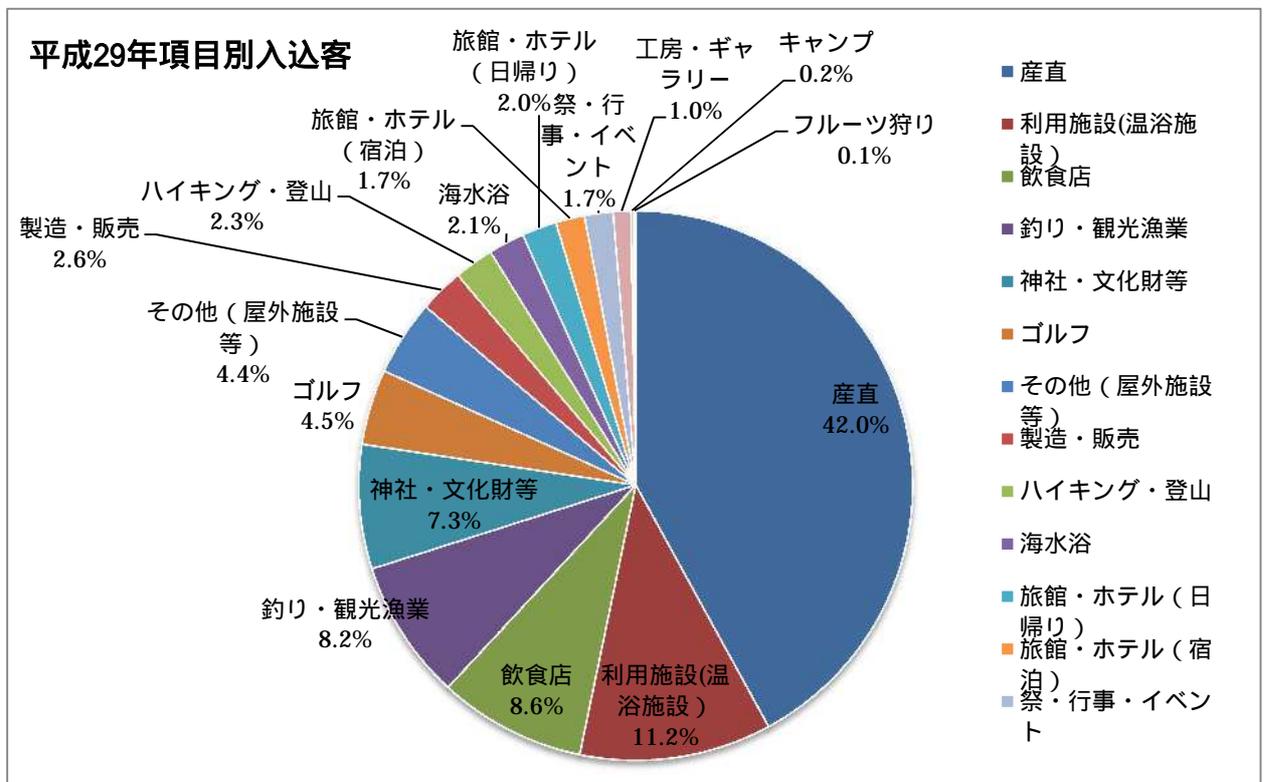
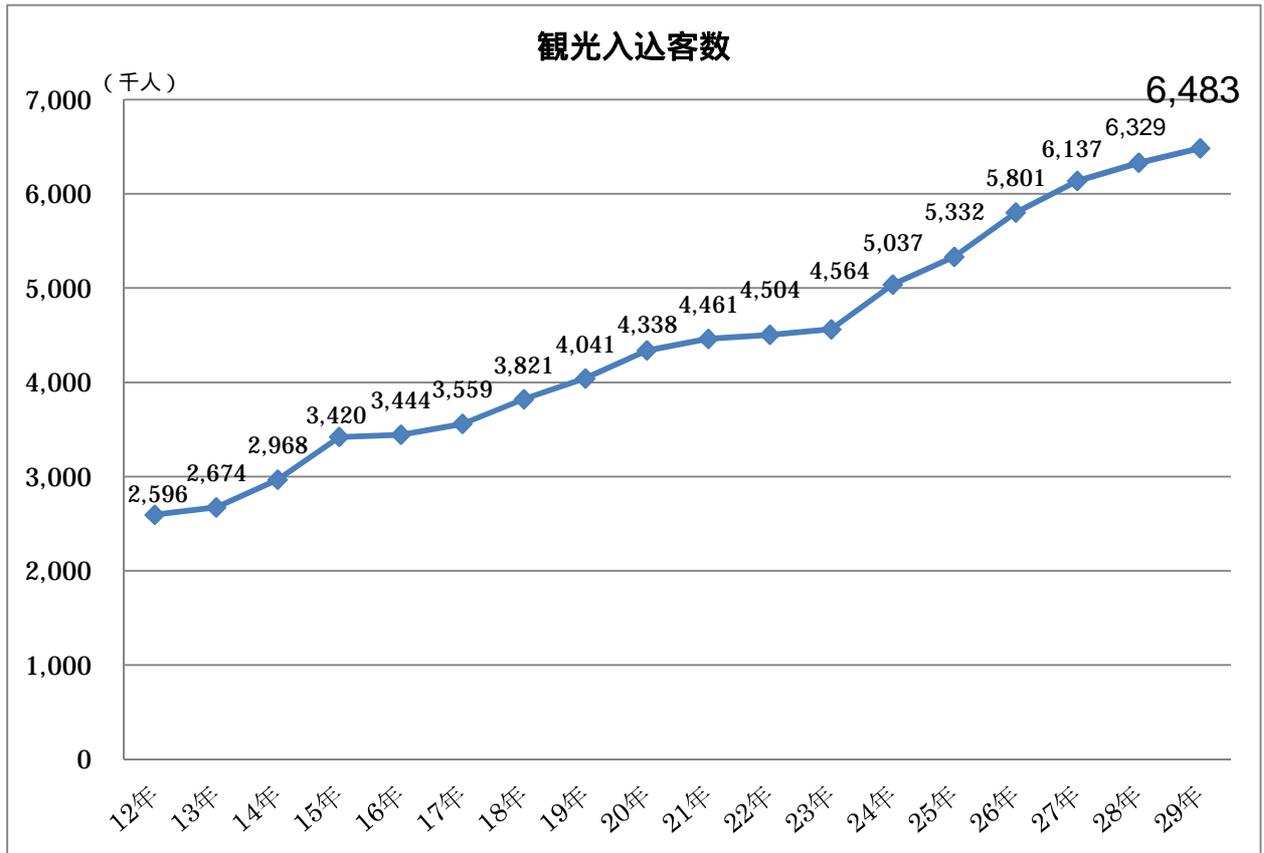
- ・みかんオーナー園の利用客が増えたことによるもの。

入込客数	割合	前年比
0.9万人	0.1%	28.6%増

➤外国人観光客が増加

- ・二見ヶ浦や白糸の滝などの景勝地に加え、桜井神社  
などの神社仏閣を訪れる外国人観光客が増えたこと、  
外国語対応を行うカキ小屋もあり、外国人観光客に  
も糸島のカキが認知されてきたことによるもの。

入込客数	割合	前年比
4.3万人	0.7%	16.7%増



**【問い合わせ先】**  
 産業振興部 商工観光課 観光振興係 担当：田中、須賀  
 TEL：323-1111（内線 1855） 332-2080（直通）

## 平成30年度福岡県原子力防災訓練について

- 1 目的 防災業務関係者の原子力災害対策への習熟及び防災関係機関相互の連携協力体制の強化並びに県民の原子力防災意識の向上を図る。
- 2 日時 平成31年2月2日(土)8時~14時10分
- 3 場所 糸島市他
- 4 主催者 福岡県及び糸島市(佐賀・長崎両県と連携)
- 5 参加者 140機関 約3,600人
  - ・参加機関:自衛隊、警察、消防、原子力規制事務所、九州電力等
  - ・関係住民:約2,900人
- 6 訓練想定

九州電力株式会社玄海原子力発電所3号機において、定格熱出力一定運転中、佐賀県内において地震が発生した。その後、原子炉冷却材漏えいが発生したため、緊急負荷降下後、原子炉を手動停止した。原子炉停止後、非常用炉心冷却装置が作動したが、全ての交流動力電源が失われる事象などが発生し、炉心を冷却する全ての機能を喪失し、全面緊急事態となる。さらに、事態が進展し炉心損傷に至り、放射性物質が放出され、その影響が発電所周辺地域に及ぶ。

事故の進展に応じ、県、関係市町及び関係機関は国と連携して、地域防災計画などに基づく諸対策を実施する。
- 7 訓練項目
  - (1) 情報収集・伝達訓練

原子力災害時の情報収集・伝達を確実にを行うため、原子力発電所における事故や避難等に関する情報を収集し、関係機関に伝達する訓練を行う。
  - (2) 緊急時モニタリング訓練

放射性物質による環境への影響を把握するため、緊急時モニタリング訓練を行う。
  - (3) 広域避難訓練

原子力災害時の広域避難を迅速かつ円滑に行うため、屋内退避訓練及び避難訓練を行う。  
【新規】バス・船舶による避難(複合災害による避難経路通行止めによる代替手段による避難)  
保育園の屋内退避訓練(保育園が策定した防災マニュアルに基づき実施)
  - (4) 原子力災害医療訓練

放射性物質による被ばくに対処するため、避難退域時検査・簡易除染訓練等を行う。  
【拡充】被ばく傷病者等受入訓練  
(放射性物質による汚染が疑われる傷病者を原子力災害拠点病院「九州大学病院」へ搬送し、除染及び負傷の処置後、ホールボディカウンターによる測定を行う。)